

# 令和2年度（2020年度）新規研究課題

課題番号：R2-02

課題名：アライグマ・ヌートリアの被害対策技術の向上

研究期間：令和2年度～令和4年度（2020年度～2022年度）

研究担当：経営高度化研究室

## 1 研究の背景

アライグマの平成30年度の農業被害額は平成27年度比約2倍、捕獲数は平成27年度比約5倍となっており、被害及び生息拡大に歯止めがかかっていない。

また、ヌートリアにおいても平成30年度の農業被害額は平成27年度比約10倍、捕獲数は平成27年度比約2倍となっており、被害及び生息拡大に歯止めがかかっていない。

## 2 目的

アライグマ及びヌートリアの被害対策を向上することで、生息数や生息域の拡大を防ぐとともに農業被害を軽減する。

## 3 研究内容

- ・県内の生息状況や捕獲の効果を調査する。
- ・行動特性の調査を行うとともに、効果的・省力的な捕獲方法の試験を行う。
- ・効果的で簡易な防護方法の試験を行う。

## 4 研究のポイント

- ・アライグマ及びヌートリアの生息状況・捕獲効果を把握することで、それらの捕獲活動にフィードバックすることができる。
- ・アライグマ及びヌートリアの捕獲・防護技術を向上させることで、増加が著しいそれらの生息拡大や農業被害を抑制することができる。

# アライグマ・ヌートリアの被害対策技術の向上

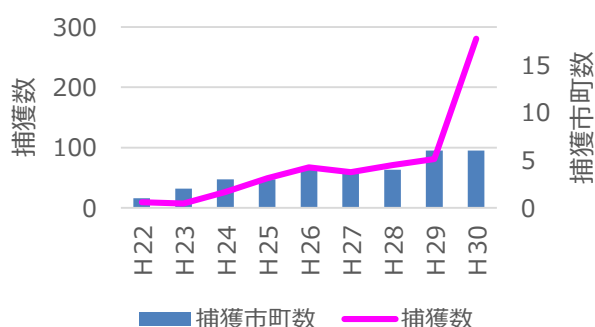
研究期間：R2-R4（2020-2022）

研究担当：経営高度化研究室

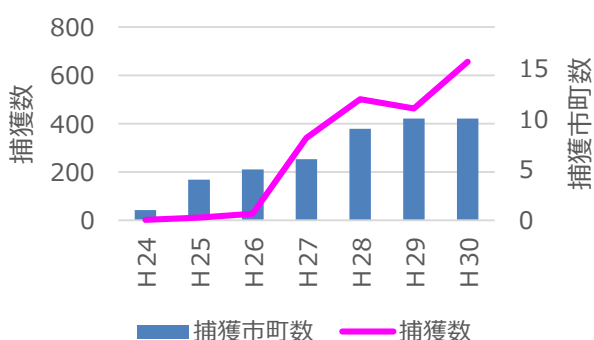
## 背景

- ・アライグマは平成21年に県内で初めて萩市で死亡個体が確認されたが、それ以降捕獲数及び農業被害額は増加し、その歯止めがかかっていない。
- ・ヌートリアは平成21年に県内で初めて山口市阿東で死亡個体が確認されたが、平成24年以降捕獲数及び農業被害額は増加し、その歯止めがかかっていない。

アライグマ捕獲状況

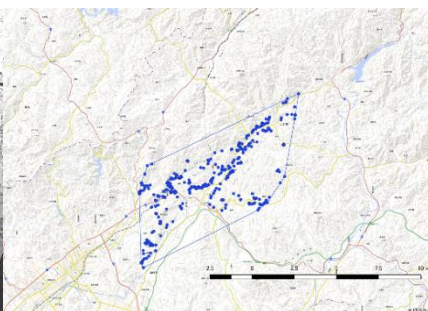


ヌートリアの捕獲状況



## 研究内容

- ・県内の生息状況調査
- ・捕獲による個体数の減少効果の調査
- ・行動調査等により効果的な捕獲方法を探索
- ・遠隔管理システムによるわな管理の省力化
- ・水路・川からの侵入防止試験
- ・簡易な防護方法を開発



## 研究のポイント

- ・アライグマ及びヌートリアの生息状況・捕獲効果を把握することで、それらの捕獲活動にフィードバック
- ・アライグマ及びヌートリアの捕獲・防護技術を向上させることで、増加が著しいそれらの生息拡大や農業被害を抑制